

平成29年度（平成28年度対象事業）
笠間市教育委員会外部評価委員会評価結果
に対する改善への取組について

平成29年度笠間市教育委員会外部評価委員会評価結果に対する改善への取組について

事業名	外部評価結果	意見・提案事項	改善への取組
英語教育強化推進事業 (学務課)	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> 英語そのものはツールであり、重要なことはコンテンツ（内容）である。ぜひ英語を使った外部への発信力を高める教育を進めてほしい。 	英語を用いての表現力や発信力を高めるための手立てとして、帰国したJET-ALTの国とオンラインで結ぶなど、郷土教育やICT教育と関連を図ることで伝える場の設定を図りたいと考えています。
		<ul style="list-style-type: none"> 小中高と連続した英語教育の取組みにも期待したい。 	授業改善に向け、小中高で連携した英語教育連絡協議会を継続していきます。
		<ul style="list-style-type: none"> 英検の数値目標ばかりにとらわれず、合格できなかった子どもにも意欲を持たせることができるよう、今後とも指導を進めていってほしい。 	英検の公費助成については、英語への興味・関心の高まる意欲と達成感を得る事業として継続していきます。また、4技能化（読む・書く・聞く・話す）される大学入試等を見据えて、小学校及び中学校外国語科の授業改善の更なる充実を図っていきます。
		<ul style="list-style-type: none"> 世界で活躍できるような子ども達の育成は今後も重要な課題であり、そのためには地域の英語教育に携わる方の掘り起こしと連携が必要である。子どもや学校に拘らず、地域の方も参加していく形を模索していただきたい。 	AETの活用として、地域交流センターでの英会話教室や市内の県立高等学校及び特別支援学校への派遣等を通して、笠間市の英語教育の更なる充実を図ります。また、世界で活躍できるグローバル人材及びグローバル人材の育成に向けて、郷土教育など他の教科・領域を横断した授業を推進することで、地域人材などを積極的に活用していきたいと考えています。
スクールソーシャルワーカー配置事業 (学務課)	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> 教員、SSW（スクールソーシャルワーカー）、SC（スクールカウンセラー）との連携の在り方については様々なケースに対応できるような方法を考えていただきたい。 	学校では児童生徒、保護者などの様々な対応について、学校長のリーダーシップのもとケース会議を行っています。SSWやSCなどが連携をとることで、福祉関係や警察関係との連携をとることができていますが、今後一層、他市町村の活用例を参考にしたり、SSWにも研修機会を増やしたりしてどんな問題にも対応できるようにしていきます。
		<ul style="list-style-type: none"> 「連携」という言葉以上に実際の成果を左右するのが、その役割に関わる方々の熱意である。SSWと教員と保護者が「子どものために」という一点で協力していける環境づくりを。 	現在でも、児童生徒の不登校やいじめ、発達障害での学校生活不適応、虐待問題、家庭環境の問題などの対応をしている状況ですが、その対応でも子どもや保護者に対して積極的に働きかけることで、より、困っている子ども達の気持ちを理解し寄り添った対応ができるようにしていきます。
		<ul style="list-style-type: none"> 相談件数から見ても必要な事業であると思われる。現場の先生方、家庭、SSW、担当部署との連携、情報交換を更に深め、より良い支援に向けていただきたい。 	SSWと学校、教育委員会、市の福祉課、中央児童相談所、医療関係等と連携を図り情報を共有し、より一層、児童生徒への支援をしていきます。
		<ul style="list-style-type: none"> 笠間市独自のチーム、学校像を作り上げ、モデルとなってほしい。 	市内の学校でも、チーム学校としての意識も高く、週1回の派遣によるSSW活用も十分に行っています。今後、一層市の教育相談体制においても適応指導教室、心の相談室、心の教室相談員、SSW、SCなどとも連携をとりながら情報共有、行動連携で取り組むことができるようにしていきたいと考えています。
		<ul style="list-style-type: none"> 事業の大切さは十分に理解できるが、家庭からのクレームやあらゆる要求にすべて答えるのではなく、親の自己責任意識も高めていただき、学校・家庭・行政の責任の分担も考えた事業展開を。 	<p>家庭からのクレームの矛先は学校になってしまうことが多く、学校の教育活動の業務に支障をきたすことがあります。また、学校と保護者が対立してしまうと、保護者が子どもを学校に行かせないといった事態に陥ってしまうケースがあるなど、その児童生徒が教育を受ける権利を奪われてしまうこともあり、単に家庭からの無理な要求を受け入れないというだけでは対応できない状況です。</p> <p>クレームのある保護者に落ち着いて話を聞いていただくとともに保護者の自己責任意識を高めるには、第三者であるSSWが仲介役として、学校としての考えや学校・保護者それぞれが担うべきことの分別を保護者にきちんと伝え、理解していただくとともに、保護者の本意を聞きだして学校に伝え、双方がより良い話し合いをできるようはかる必要があります。</p> <p>そのためにSSWは、普段から学校、教育委員会、その他関係機関と連携をして、家庭へ働きかけよりよい解決策を見い出していきます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 事業の評価指標に、相談への振り返りなどを加えると、評価しやすくなるのではないか。 	相談者がSSWを評価する機会はありませんが、学校が担当しているSSWの評価をしているので今後、その評価を活用していきます。

事業名	外部評価結果	意見・提案事項	改善への取組
生活困窮者学習支援事業 (生涯学習課)	改善し、継続	<ul style="list-style-type: none"> アドバイザーは元教員が多いようだが、若い学生たちの参画をもっと進めていただきたい。 学校、担任との連携、さらにアドバイザーについては大学との連携など、今後細部について検討する必要があると思われるが、大変重要な部分に取り組んでいるので、学校・家庭・市教委の連携を生涯学習課が中心となって進めていってほしい。 	<p>現在2名の学生がアドバイザーとなっているので、各公民館1名ずつ配置できるよう、大学へ協力を得ながら募集を行っていきます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 評価できる事業であるので、受講者のアンケートに「総合的に考えて、“チャレンジスタディールーム”に参加して良かったか」といった項目を入れ、段階評価をもらうなど、指標を検討していただきたい。 	<p>受講者へのアンケートで、チャレスタの満足度等の項目を追加し、指標を設定していきます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者、社会的な問題、子ども達のため、親（ワーキングプア）のためにも、社会全体での支援が必要だと思う。 	<p>関連各課と連携をしながら、事業を進めていきます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 今後この事業をどのような方向に進めていくかという戦略が少し弱いような気がする。拡大していくのか現状維持していくのか、今後のあり方を検討していただきたい。 	<p>事業対象者に対する参加率は約25%なので、当面このまま継続しながら、事業の充実を図っていくとともに、小学生については、寺子屋事業でカバーしていきます。</p>
文化財活用事業 (生涯学習課)	改善し、継続	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の活用方法がどうしても学術的な側面ばかりになっている。考え方によってはエンターテインメント的要素を取り入れて、事業を拡大させる方法もあるのでは（文化財は今後、保守等で費用が係ることから、博物館などを参考にしているか）。 一般公開にとどまらず、歴史、観光、イベント等と連携し、発展させていけると笠間市全体で笠間の文化、歴史が伝えられるのではないか。市の独自性を出していくこと。 	<p>学生ボランティアが解説をしながら、文化財を公開するという手法を継続していく中で、例えば、文化財管理者や地元の方々の湯茶接待の部分に飲食物の販売などを加えて拡大し、文化財維持管理費用に充てていただくような取り組みができるか今後検討いたします。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 英語教育強化推進事業と連携させて、子どもたちが外国人に対して英語で文化財を説明する活動もできるのでは。英会話でガイドする子どもボランティアを募集するなど、地域や学務課の事業も巻き込んで発展させてほしい。 	<p>現状では外国人来場者がほとんどいないことから、今後の来場者の状況を鑑みながら必要性を判断したいと考えています。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 外国観光客へも配慮してパンフレットを英語にするなど、外に向けて事業を発信することも考えていただきたい。 	<p>今後の課題とし、検討いたします。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 市の良さを知り、学び愛することができるような方向性で文化財を見つめていくような事業にしてほしい。 小学生の授業「笠間志学」の中に、実地見学のカリキュラムを入れることが必要かと思われる。 	<p>現在、「笠間志学」の中で、笠間の歴史、文化を学校で学習する機会がありますが、文化財公開としては、イベントが土日の開催であることから、学校の授業の一環として実施することは難しいと考えております。子ども達の参加を促進するため、地元の子ども会などで協力をしていただくことができるのかは今後の課題であると考えています。しかし、平日に学校が校外学習として文化財の見学を希望する場合には、市教委が学校と所有者の連絡調整を行うことも可能かと思われます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 予算を増やして事業を進めていってほしい。 	<p>今後、公開箇所を少しずつ増やしながら継続していきます。</p>		
教育情報ネットワークシステム運用管理事業 (学務課)	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> I C T教育の充実は時代の流れの中でどうしても必要である。ただ、情報機器はツールにすぎないものなので、何の目的で使うのかを常に検討することが大切だと思う。 将来、世の中を背負う人物を育てられるように、機械のみではなく総合的な教育システムになるように考えてもらいたい。 	<p>教職員の情報部会において授業での活用について研究を行っていただいております。今後の導入については、その報告を元に導入を実施してきます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化のための情報化は必要であるが、効率化が本当に現場の先生方にとって有効であるのか否かについてはアンケート調査等を十分にいただきたい。 現場にアンケートを行うことで意見を聞き、改良していくことで指標を定めることが可能になると考える。 実質的な事務作業軽減になっていくよう、教委と現場との密な情報交換をお願いしたい。 	<p>現場の負担軽減に向け、教職員へのアンケートを今後行ってまいります。今後は、文部科学省から提示されたセキュリティポリシーガイドラインに合わせたセキュリティの確保が重要となってまいりますので、その中でよりよいシステム構築できるよう、設計段階から各学校の情報担当者等との打合せを行いながら整備を行います。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 先生方の校務事務軽量化のためにはあるが、使用に対する予算を考えると、何らかの改善が必要ではないか。成績その他の個人情報等の管理などには必要かもしれないが、費用対効果を考えるべきである。 メンテナンスなどは業者に一括依頼であると思うが、費用対効果を考え、業者指定を行ってほしい。 	<p>なにが必要で、なにが不要なのか、個々の業務を見直し、削減可能な箇所の選定を行います。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティについては十分な対応をお願いしたい。 	<p>平成30年度にセキュリティポリシーを策定予定です。</p>

事業名	外部評価結果	意見・提案事項	改善への取組
図書館サービス事業 (図書館)	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根差した文書や資料の保存等については充実させてほしい。活字離れが問題となっている今日、「本」を作ることの大変さを利用者に伝えるイベント等を計画していただきたい。 	<p>「本」をつくることや、書くことは大変なことであると考えていますので、そのようなイベントがあれば検討して行きます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 名著や名作についてはデジタル化を進めてもいいと思う。スペースの問題があるが、電子化によってこの問題は解決可能であると思われる。 	<p>名作の著作権切れの作品については、デジタルの青空文庫から見られるため、笠間市立図書館のホームページからリンクされており、現在も利用していただいています。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 文字、活字離れといわれる中、「本」「読書」「図書館」の果たす役割は年々重要になってきていますので、さらに学校と連携し工夫改善して行ってほしい。 学校の課題として伝記を読むということを夏休みに行ったところ、近くの図書館の伝記コーナーの本がなくなって困ってしまったことがあった。学校と連携し工夫することは可能か。 	<p>学校図書館との連携はこれまでも行っています。今後は学務課と協議の上、市立図書館等に学校図書を担当する司書の配置を新たに検討するなど、より良い体制の構築を進めてまいります。また、学校との課題図書の調整についても検討してまいります。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 資料購入費は、流れの早い現代ではそれなりに必要であるので、購入費の安定した予算どりが重要である。 	<p>魅力ある図書館の運営には、資料購入費の予算や利用者のニーズに合わせた図書の購入は重要であります。今後も安定した予算を頂けるよう努力してまいります。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 各館が地域の特性を生かした書籍をそろえることも大事と考える。市民も、種別によって各館を選んで訪れると思う。 	<p>笠間館は陶芸と美術関連、友部館は筑波海軍航空隊、岩間館は農業関連と、各館の特徴をもった書籍を蔵書しています。今後も各館の特性に合わせた、書籍の購入を進めてまいります。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 指標に、小中学生の読書量推移などを取り入れる必要を感じる。さまざまな家庭環境の子どもがどれだけの良い読書体験ができるかを保証していただきたい。 	<p>読書量については、教育振興基本計画の数値目標として、「年間50冊以上の本を読んだ児童の割合(小4～6)」を設定しています。また子どもたちには、様々なジャンルの本を提供していきたいと考えていますので、そのために予算の確保を推進していきます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 現在各学校への団体貸し出しを実施していますが、今後、放課後児童クラブに対しての団体貸し出し(学校と同じような方法で)を検討いただければと思います。 	<p>現在、放課後児童クラブに対しても団体貸し出しで対応しております。本の運搬については、学校同様各児童クラブでお願いしたいと考えております。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 各小学校図書館への常駐司書の配置が急務。それによって本の入れ替え、活性化、読書量の増加が図られると考える。 	<p>学校図書館との連携には、学校司書の確保は重要であります。今後も教育委員会と連携協議し、学校司書の配置を検討してまいります。</p>
市民運動会事業 (スポーツ振興課)	改善し、継続	<ul style="list-style-type: none"> 継続するのであれば、何のために開催するのか等目的、目標、位置づけ、そして評価指標を明確にする。 プログラムが学校で行われる運動会になってしまっている。コンテストなど文化的な要素を取り入れて実施してはどうか。 今後継続させていくための方法として、年齢的な部分も含め、各種イベントとの連携等を考慮し、市民の参加しやすい運動会を目指していただければ。 3地区が協力しないと成り立たない競技など、地区の市民が地区外の方と積極的に交流を図ることのできる内容にしていただきたい。 運動会としては予算が高額に思える。努力が必要では。 	<p>他のイベントとの共催等について、場所や駐車場等の諸問題、民間への業務委託、費用対効果など市民運動会実行委員会等のご意見も聞きながら市民運動会のあり方について検討してまいりたいと考えております。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> スポーツ振興課という一つの課の事業とせず、文化祭等の文化的なイベントとのコラボなど他課の事業とあわせ、他市からもお客さんが来るような魅力のある事業にしていきたい。 	<p>平成29年度については、環境保全課及び生涯学習課の関係する「かさま環境フェスタ」を同日・同会場で開催予定としておりました。今後も他課との連携を検討してまいります。</p>

事業名	外部評価結果	意見・提案事項	改善への取組
市民展覧会・ 公民館まつり事業 （公民館） ※ 市民展覧会＝公募による美術 展覧会。日本画・洋画・彫刻 立体造形・工芸デザイン・書 道・写真の6部門。 公民館まつり＝公民館利用者 のお祭り。作品展示、芸能発 表、体験ブースなど。	改善し、継続	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出品者が固定化し、一部の専門家だけの展覧会にならないよう支援をしてほしい。 	市民展については、多くの人が出品できるようにPRを充実させます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出品者の力量を向上させるような市民講座の充実も図っていただきたい。 	公民館まつりについては、公民館講座の参加者が技術を高め将来的に市民展覧会に出展できるように、市民講座を充実させるなど支援をしていきます。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民に芸術的な啓蒙が広がるような努力も事業の中で行ってほしい。 また、期間中、来場者がやってみたい部門の体験ができればすそ野が広がると思う。 	市民展については、賛助会員や審査員の優れた作品を展示することにより、市民の芸術的な啓蒙を図っていきます。 公民館まつりについては、体験ブースなどを充実させるとともにより多くの人に来館してもらえるように学校などにもPRしていきます。
調理事業 （地産地消の推進） （学校給食センター）	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残菜率が全国的に見ても低い（小学校9.8%・中学校9.6%）点が高く評価できるので、こうした数値は指標に反映させてもいいと思う。良い点は積極的にPRしていただきたい。 	今後も現在の残菜率を維持できるよう創意工夫や関係者の協力で進めていけるよう努力いたします。 ただ、実際に残菜率を指標として挙げる場合、残菜率10%未満は供給量の不足の危険性がある（子どもの食べる量には個人差があるにも関わらず残菜率が低い＝提供量が足りない可能性がある）といった意見もありますので、アンケート等を行いながら慎重に進めていきたいと考えています。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育の充実を図るためには、家庭での食の状況も考慮に入れた取組みも行っていただきたい。 	食育は、栄養教諭を中心に行っております。食育の授業において食の重要性を各学年に応じた視点を持ち行うことにより、理解度を高め、家族と食に関する会話ができるよう進めているところです。